

10月1日スタート!

幼児教育・保育利用料が無償化されます

対象となる子ども▶4月1日時点での年齢が3～5歳の児童
 ※認定こども園（教育）は3歳となった翌月から対象、住民税非課税世帯の0～2歳児
 対象となる施設・サービス▶保育園、幼稚園、認定こども園（教育・保育）、幼稚園・認定こども園（教育）の預かり保育、障害児通園施設、認可外保育施設等（認可外保育施設、ファミリー・サポート・センター、病児保育、一時預かり）
 対象となる費用▶施設・サービスの利用料

保育料の無償化にあたり申請などの手続きは必要ありません。ただし、預かり保育、認可外保育施設等を利用する方は別途手続きが必要になりますので、下記までお問い合わせください。

閩福祉・児童課
 （すこやか内）
 ☎87-0777



利用料が無償化されるのはどんな場合？

●3～5歳児

通っている施設	専業主婦(夫)家庭など 保育の必要性の認定事由に該当しない	共働き家庭、ひとり親で働いている家庭など 保育の必要性の認定事由に該当する
保育園 認定こども園(保育)	無償 (2万5,700円/月)	無償
幼稚園 認定こども園(教育)		無償
預かり保育 ※幼稚園、認定こども園(教育)の利用者が対象	無償化対象外	無償 (日額450円×利用日数)
障害児通園施設	無償化対象外	無償*1
認定外保育施設等	無償化対象外	無償 (3万7,000円/月)

●0～2歳児（住民税非課税世帯）

通っている施設	専業主婦(夫)家庭など 保育の必要性の認定事由に該当しない	共働き家庭、ひとり親で働いている家庭など 保育の必要性の認定事由に該当する
保育園 認定こども園(保育)	無償	無償*2
障害児通園施設		無償*3
認定外保育施設等	無償化対象外	無償 (4万2,000円/月)

※()内は上限額

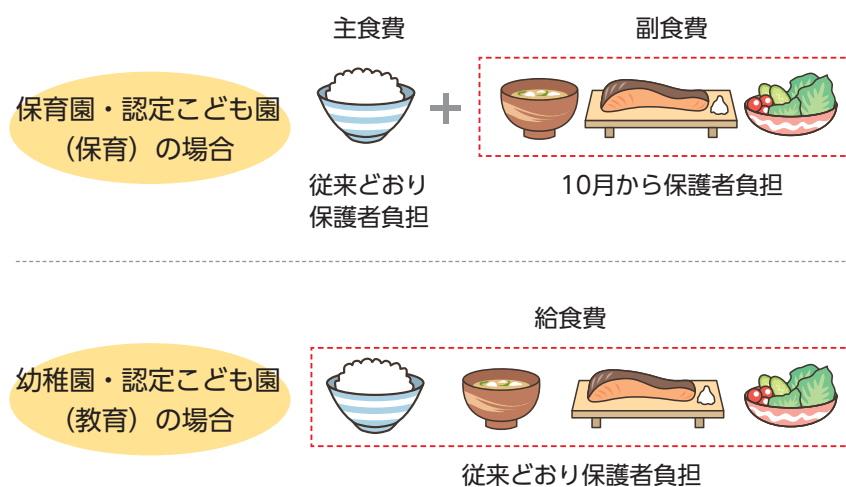
- *1 保育園、幼稚園、認定こども園と併せて利用した場合も、ともに対象
- *2 第3子以降は住民税非課税世帯以外も対象
- *3 保育園、認定こども園と併せて利用した場合も、ともに対象

3～5歳児の副食費

従来は保育料に含まれていた、保育園や認定こども園（保育）の給食の材料にかかる費用は、無償化後も引き続き保護者のご負担となります。

幼稚園、認定こども園（教育）の給食費は今までどおり保護者負担です。

ただし、第3子以降の子どもと年収360万円未満相当の世帯の子どもの副食費は免除されます。



病児・病後児保育

事業とは

病児・病後児保育事業は、急病などで保育園、幼稚園、小学校に行けない急性期または病後回復期の子どもたちを、仕事や家族の都合で看病ができない方に代わり、看護師や専門の保育士が一日しっかりと見守る事業です。

勝山市では、1999年10月1日に医療法人深慈会「フ

リニカ・デ・ふかや」のご協力のもと、県内で先駆けて「ひかり病児保育園」を開設し、今年で20年目を迎えました。同園では家庭を離れ不安な病児の子どもたちが安心して過ごせるよう、マンツーマンの病児保育を行うなど、一人一人に手厚いケアを心がけています。

閩福祉・児童課（すこやか内）
 ☎87-0777

ひかり病児保育園

（クリニカ・デ・ふかや内）
 ☎88-0288



親子に安心提供20年

病児・病後児保育事業



万全の態勢でお子さんを受け入れています



20年の継続に感謝

このたび勝山市病児保育事業が施行から20年を迎えるにあたり、事業を担っていただいている医療法人深慈会様には、子育て世代のニーズと、変化する地域社会の要請をいち早くとらえ、病児保育としては県内初、病後児保育としては県内3番目となる「ひかり病児保育園」を開設していただき、「子育て環境日本一」を目指す勝山市の子育て事業の推進に大きなお力をいただいていることに感謝を申し上げます。

子どもたちを取り巻く地域や環境が大きく変化する中、子ども一人一人の健やかな成長を実現する社会の構築のため、企業や医療機関、行政などが共同してそれぞれが役割を果たすことが求められております。その先駆けとして、これからも、これまで培われてこられた経験を生かし、変化する社会情勢に合わせた地域福祉にご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

勝山市長

山岸正裕

開設から20年を迎えて



ひかり病児保育園 深谷 里江園長

この10月1日で病児保育園を開設して20年になります。私がこの病児保育施設を勝山で開設しようと思ったきっかけは、私自身が病児保育施設を利用した母親の一人だったからです。20

数年前は岡山市で暮らしていました。当時岡山市は一校区にひとつ病児保育施設が設置されていました。発熱した息子をどうしたものか？と困っていたところ友人が「病児保育というものがあるから預けてみたら？」と勧めてくれました。病気の子どもを預けるなんてと抵抗がありましたが背に腹はかえられず思い切って利用してみたのです。それまで子どもを預けたことが無かったので心配でしたがお迎えにいくとニコニコ笑っている息子の笑顔と保育士さんの手厚い保育に不安は解消しました。そして何かあったら病児保育がある！と身寄りのない街での子育てが少し楽になりました。この時「勝山に戻ったら絶対病児保育という子育て支援をしなければ」という思いが生まれたのでした。

あっという間に20年が過ぎました。これからも勝山市の子育て支援の1つとして一歩一歩、歩んでいこうと思います。

この20年間携わってくださった皆様のご理解ご協力のもとこれからも「こどもは宝物 大切な命」との思いを胸に一人一人を育んでまいります。